

廃棄物減量等推進審議会でいただいた意見一覧

「京・資源めぐるプラン」の中間見直し及び次期クリーンセンター整備方針の策定に関して、廃棄物減量等推進審議会委員からいただいた意見を記載する。

会議名	テーマ	意 見(発言者)	施策 関連	施設 関連	キーワード
第73回 本会	施策部会の 審議状況	衣類対策に関して、ファストファッションが当たり前になっていることに対して警鐘を鳴らすべき。京都には伝統の考え方があり、また、若者の間でアップサイクルが流行りつつあるので、それらも活かして前向きに低価格化に歯止めをかける取組ができないか。(浅利委員)	○		衣類
第73回 本会	施策部会の 審議状況	リチウムイオン電池や衣類、プラスチック等のリサイクルにおいて、既に市民の努力だけでは改善が難しい部分がある。製品の売り方への取組は市内の事業者へのお願いとなるが、製品自体の性質変更はメーカー等の積極的な関与に向け、他自治体と連携して、国等に働きかけが必要。(笹尾委員)	○		環境配慮設計
第73回 本会	施策部会の 審議状況	小売り段階で付加するプラスチックは京都市でも対策できることであり、現実的な路線として期待している。また、野菜の裸売りに関してもインセンティブを付けるなどして進めていけるとよい。(佐藤委員)	○		プラ対策
第73回 本会	施策部会の 審議状況	生ごみの資源循環に関して、鎌倉市では家庭用生ごみ処理機が2割程度普及しており、非電動型には90%の補助金を出している。また、福岡市は事業系の生ごみリサイクルが進んでおり、リサイクルと焼却で価格差がないと聞いている。そのうえ、1キロ当たり4円の補助金も出しており、焼却よりも安価でリサイクルできているといった自治体もあるので、他の自治体の動向研究も行っていただきたい。(佐藤委員)	○	○	生ごみ資源化
第73回 本会	施策部会の 審議状況	耐久消費材について、クリーンセンターにストックヤードを設け、リサイクル可能なものを選別する方針に賛同する。プレスパッカー車による大型ごみ運搬時の圧縮破壊を防ぐために、回収申込の際に、排出者にまだ使えないか等を確認することはできないか。(佐藤委員)	○	○	耐久財
第73回 本会	施策部会の 審議状況	有害・危険ごみ、医薬品・農薬、化学薬品の回収に関して、処分の危険性等を考えると関連する産業界の協力が必要。スウェーデンでは一部の町では使いきれなかった医薬品の回収・処分を医薬品メーカーが担っていたり、ほかの町では産業界で大型バスを用意して、月1回程度各地域を訪れて医薬品などの危険物を回収している。(崎田委員)	○	○	有害・危険ごみ
第73回 本会	CC部会の 審議状況	耐久消費材に関しては、リユースの前にリペアを考えるきっかけが必要ではないかと考えている。例えばリペアカフェのようなものを実施できる資源物回収拠点にすることはできないか。(山川委員)	○	○	リペア

会議名	テーマ	意 見(発言者)	施策 関連	施設 関連	キーワード
第73回 本会	CC部会の 審議状況	近年はCO2を有効活用するような技術も出てきている。産業界と連携してどのような手段がごみ処理の施策の選択肢としてあるのかを考えていただきたい。(崎田委員)		○	CCUS
第73回 本会	CC部会の 審議状況	クリーンセンターを地域コミュニティの中心にする考え方もある。(崎田委員)		○	地域コミュニティ
第73回 本会	CC部会の 審議状況	食品廃棄物対策に関して、食品ロス削減が進み、次の段階のことを考えられる状況になってきた。バイオガス化等の食品廃棄物を生かすことをきちんと考えていただきたい。(崎田委員)	○	○	食品リサイクル
第73回 本会	CC部会の 審議状況	生ごみのリサイクルは、バイオガス化して消化液を得るほかにも、バイオガス化して個体の堆肥化、バイオガスなしの堆肥化、飼料化などの選択肢もあると思う。(佐藤委員)	○	○	食品リサイクル
第73回 本会	CC部会の 審議状況	リユースの視点は重要ではあるが、壊れたものを自分で修理して、リペアして使い続けていく考えも大事である。リペアカフェのような市民が集える場を資源物回収拠点や次期クリーンセンターを整備していく際にできる限り検討していただきたい。(内藤委員)	○	○	リペアカフェ
第73回 本会	CC部会の 審議状況	リチウムイオン電池に関して、AI等の新技術を使って検知ができる技術を導入できないか。(中尾委員)	○	○	リチウムイオン電池
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	食品廃棄物リサイクルについては、食品リサイクル法の報告制度対象外である、年間発生量が100トン未満の食品関連事業者が市内に多数いると思うが、そうした事業者を対象とした仕組みを作って徹底していくことで大きな成果がでるのではないか。(崎田委員)	○		食品リサイクル
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	東北部クリーンセンターの耐用年数が単純計算で35年ということになるが、北部クリーンセンターも同様に考えると6年後に耐用年数を迎えることになり、非常に近い期間で、2つの焼却施設を整備することになると思うので、このことも視野に入れながら、検討していく必要がある。(小島委員)		○	

会議名	テーマ	意 見(発言者)	施策 関連	施設 関連	キーワード
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	生ごみは燃えにくいものと認識しているが、燃やさないで再資源化すれば、より一層、脱炭素化を進めることになるので、前向きに検討いただきたい。(小島委員)	○	○	食品リサイクル
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	ごみ減量について、発生抑制はもちろんだが、リユースをしっかりと進めることが必要。(崎田委員)	○		リユース
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	2025年の大阪・関西万博の半年間のイベントのために調達したものは、できるだけ廃棄にならないように、ほぼ100%をリユースするためのプラットフォームを新しく整備している点が非常に大きな特徴である。ぜひこの仕組みを万博後に地域の習慣として広げて、定着させてほしい。(崎田委員)	○	○	リユース
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	給水スポットをネットで確認することができるが、実際に見つけることが難しい。また、給水機の横に自動販売機があるとそちらを選択される方が多いのではないかと思う。給水機の横で水に溶ける粉末や濃縮液を販売できるとより普及するのではないか。(中尾委員)	○		給水スポット
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	プランの進捗報告について、期間が令和元年度から5年度であり、コロナ禍やその後のオーバーツーリズムというような異常な事態であったと思うので、そうした要素も考慮したうえで中間見直しの検討をするべき。(石田(哲)委員)	○		コロナ禍 オーバーツーリズム
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	災害対策については、商店街にとっても重要である。今年1月1日にも能登半島地震があったが、今後南海トラフのような大きい地震が起こるリスクがある。資料2のスライド35の論点5には「気候変動に伴い高まる災害リスク」との記載があるが、気候変動に伴うものに限らず、想定外の規模の災害が起こった際の対応はどこまで検討されているのか。(石田(哲)委員)	○	○	災害廃棄物
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	市民、事業者、行政が連携してゼロウェイストに近いまちを目指して新しい取組を検討したうえで、施設整備方針を策定してほしい。(崎田委員)	○	○	ゼロウェイスト

会議名	テーマ	意 見(発言者)	施策 関連	施設 関連	キーワード
第72回 本会	諮問の背景 及び検討の 進め方	多額の費用をかけて排ガスの規制を非常に厳しくするなど、市としても大変な苦勞していると思うが、そうしてでも3工場体制を維持する必要があるのか。そのお金を使って生ごみを分別収集して再資源化するといった、私たちの未来に投資をする選択肢もあると思う。まだ少し時間があるので、市民も含めてみんなで議論していくべきだと思う。(佐藤委員) →ゼロベースで物事を考えられるかというのは、条件次第であり、それでは進まない場面というのがどうしてもある。いつか災害が起こることは間違いなく、処理体制をしっかり持っておかなければ、地域社会は立ち行かなくなるので、適正処理も非常に重要な機能である。循環型社会を目指していくことは重要であるが、適正処理体制をしっかり守っていくことは大切である。(酒井会長)	○	○	施設整備